
幽霊で遊ぼう

夢優うさぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幽霊で遊ぼう

【Nコード】

N8970R

【作者名】

夢優うさぎ

【あらすじ】

ここは幽霊屋敷だ。僕という幽霊が住んでいる、立派な幽霊屋敷。そう、そのはずなんだ。「なーゆうれい、きいてるのかー?」「ねーあそぼー」なぜか僕に懐いてくるちびっこたちを見て思う。――何がどうしてこうなった。

（前書き）

“幽霊”ってファンタジーの括りに入るんでしょうか？

ここは無人の住宅。

その半分ほどが森に埋まっているように建つこの家はただの空き家じゃない。

その昔、と言うほど昔でもないのだけど、この家に強盗が侵入し、一家が皆殺しにされたという、曰くつきの家だ。

だから気味悪がつて誰も住みたがらないし、元々ここは田舎だ。過疎化が進んで出ていく住人は数あれど、入ってくる住人は滅多にいない。

そんなこんなで手入れもされないこの家は、蜘蛛が好き勝手に巣を作り、強盗が踏み荒らした床や壊した家具などがそのままになっている。元々古くからある立派な日本家屋のため、夜になれば立派な幽霊屋敷である。

さて、ここで自己紹介をしておこう。僕はここに住んでいる幽霊だ。要するに、強盗云々の被害者その一である。

まあ家族とか、そういうその他の被害者は割とお気楽な人たちだったので、殺された時も『あー、神様のお出迎えじゃー。ついに天国に召される時が来たかー（一部勝手に改変）』とか言いながら、殺されたというのににこと幸せそうに天国に行っちゃったけど、まあ今はそんな些細なことだ。僕が何故ここに残っているのかとかいうのも、面倒だから省いてしまおう。

だからうん。とりあえず、状況を整理してみようか。

今は夜。場所は当然幽霊屋敷だ。

ここは大人も近寄りたがらないれっきとした地元の心霊スポットで、実際肝試しをしに来た子どもくらいしか来たことはない。まあよほど家を荒らされたりしなければ黙ってみてたけど、変なことをしそうなやからには遠慮なくポルターガイストもどきをお見舞いしてやった。そこからあまり人が来なくなったのは幸運だったかもし

れない。やっぱり自分の家に勝手に入られるのは気分が悪いからね。

……話がそれた。まあ、要するに、僕が言いたいのは一言だけだ。

「なーゆうれい、ちゃんとはなしきいてんのかよー」

「幽霊じゃないよ秀くん。ちゃんと名前聞いたじゃない」

「そうだったけ？ わすれた」

「ねーかいとー、あそぼー」

「だめー！ 海兎はわたしとあそぶのー！」

「海ちゃん、もてもてだね」

……うん。ほんと言いたいの是一言だけだ。というか、この一言ですべてを言い表せる気がする。

……何がどうしてこうなった。

時計がないから時刻は分からないけど取りあえず夜。僕は今、非常に困惑している。

取りあえず、押しかけてきたちびっこーずに名前を聞かれて反射的に答えた十分前の僕を、首を絞めて昇天させたい。……あ、もう死んでた。

僕がいる居間には何故か電気がついており、同じ部屋に何故か小さいのがわんさかいる。どうでもよくないことだけど、僕電気代とか払えないんだけど。てゆうかまだここ電気通ってたんだ。

認識を違えないようにしつこいだろうけど言っておくと、ここは立派な幽霊屋敷だ。僕という幽霊が住んでいるし。

加えて今は夜中ってほどもないけど、まず間違いない夜だ。日が落ちてから結構経っている。そして目の前に居るのは、ちっさい子どもが三人とそれよりは大きい子どもが一人。

……わけわかんね。

「ゆうれー、あのさー」

駄目だ。僕は現実を直視したくない。ちょっとここで現実逃避しようじゃないか。現実逃避最高。

「……なーあかね、ゆうれいがはなしきてくれない」

「あ、泣かないで。大丈夫。海ちゃんちよつと現実逃避してるだけだから。そのうち戻ってくるよ」

……何故分かる。

いや、駄目だ僕。落ち着け。策略に乗ってはいけない。落ち着いて前向きに現実逃避しようじゃないか。なんか表現がおかしい気がするけど。

つか今、夜だぞ。なんでこんなところに子どもがいるの。親とか

どうなってるんだ。育児放棄か？

……育児放棄の親多過ぎない？ 四人で。

……違うのかな。

まあ、それは置いて。なんで僕が見えているのが問題だ。流石にこんな人数が全員“靈感あります”って訳ないだろ。幽霊だぞ、僕。

特に強い怨念持ってたかもしれないし……なんでだ？

——ちょっと待て。

待て待て。ほんと待て、僕。

なんか普通に現状を考えてないか？ これって現実逃避っていうのか？ 普通に現実直視している気がするんだけど。

「かいとー、あそぼーよー」

「海兎お……おこってるならあやまるから、あそんでー」

どうしよう。なんかすごい服引つ張られてるんだけど。なんか一人涙ぐんでるんだけど！

つか見えるどころかさわれるのかお前ら！ すごいな！ そして

僕は幽霊で間違いなかったよな！？

……いや、駄目だ駄目だ。これも一種の策略だ。屈するな僕。現実逃避を継続しろ。なんで僕懷かれてんのか、なんでこいつら居るのとか、いつさい考えるな。——もう考えてるけど！ 手遅れだけど！ ただのたとえだから問題ない。問題ないさ！

さあ、張り切って現実逃避を続行——

「ゆーれーもどってきたのか！？ ほんとか！？」

ぞっこ——

「うん。ほら秀くん、今のうちに聞いてもらわないと」

逃避――

「ねーねーまだー？」

「うー……あそんでよお」

……

『あーもう煩い!!』

続行できるかあああ！

反射的に叫んだ僕に、部屋は一瞬静まり返り、……そのあとちびっこ達が嬉々として寄ってきた。

ああ、駄目だもう。
負けた。

その後、夜遅くなるまで遊びに付き合わされた。

今時珍しく、近所の人総出で探し回ったようで、その人たちに引き取られて帰って行った。

帰り際にはなっていた「またくるからなー」「またあそんでー」という捨て台詞は、聞かなかったことに決めた。僕の身が持たん。

後、僕の姿は何故か全員に見えていたようで、ときどき近所づきあいと称して人が訪ねてくることが増えた。

どうしてそんなににこやかなんですか皆さんと問いたい。すごく聞きたい。なんでそんなほのぼのとした雰囲気で接してくるの。僕一応霊なんですけど。「海ちゃんを見てると癒されるのぉ」それはどういう意味ですかおじいちゃん。幽霊に癒されてどうするんですか。それとももう呆けてるんですか。「海ちゃん子どもたちをよろしくねえ」ってそのばあちゃん。訂正して。今すぐ訂正して。冗談でもそうじゃなくてもお断りだから。受け付けないから。禁止だよそういつの。言っちゃだめだよ。禁句だよ。わかってよ。

そんなこんなで僕の周りは少しにぎやかになった。

なんかもう……………つかれた…………

あ、電気代どうしよう…………

（後書き）

ちびっこ二人の名前が出てこないけど、とくに問題ありません。
途中から壊れていく海兔くんを書くのが非常に楽しかったです。

あと、なんで幽霊なのに見えんの？ って質問は、この一言で万事
解決です。

……この小説はご都合主義全開！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8970r/>

幽霊で遊ぼう

2011年10月8日05時42分発行